

会 議 録

会議の名称	第4回小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会		
事務局	生涯学習部生涯学習課		
開催日時	令和6年12月18日(水) 18時30分から20時30分まで		
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出席者	委員長	金子 嘉宏	委員
	副会長	塩原 真一	委員
	委員	瀧島 啓司	委員
		倉脇 雪夜	委員
		大林 基	委員
		板垣 智徳	委員
		天本 晋平	委員
		島田 剛	委員
		鈴木 哲也	委員
		瀬沼 将己	委員
		砂子 啓子	委員
		中村 彰宏	委員
		依田 隆夫	委員
		川原 美紀	委員
		下島 陸矢	委員
欠席者		梶野 政志	委員
事務局	生涯学習部長	梅原 啓太郎	
	生涯学習課長	三浦 真	
	スポーツ振興係長	越 元宏	
	スポーツ振興係主任	津田 理恵	
	スポーツ振興係主事	矢島 幸子	
	指導室長	平田 勇治	
	指導室統括指導主事	田村 忍	
受託者	リーフラス株式会社	中野 泰博	戸所 徳益
		富永 寧々	
傍聴の可否	可 一部不可 不可		
傍聴者数	2		
傍聴不可等の理由等	-		
会議次第	1 前回会議録の確認 2 小金井市における学校部活動の地域連携について 3 小金井市の学校部活動のあり方について 4 今後の予定について 5 その他		
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり		
提出資料	別紙のとおり		

金子委員長 それでは、定刻となりましたので第4回小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会を開会します。

本日、梶野委員より欠席と連絡を受けてございます。中村委員からは遅れるという連絡をいただいております、倉脇委員については、まだ来られておりませんが、定足数については、小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会設置条例第6条第2項に半数をもって成立することになっており、ただいま16人中13人のご出席をいただいておりますので、会議は成立していることをご報告申し上げます。

三浦課長 改めまして、皆様こんばんは。年末のお忙しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。

本日は20時過ぎ頃までの会議を予定しております。議題は、前回同様、大きく分けて2つでございます。

議題2につきましては、学校部活動における地域連携の実証実験について、今年度、小金井市立緑中学校のバスケットボール部の皆様にご協力をいただく予定でございます。本件につきましては、委託してございますリーフラスさんより、一定のご説明を差し上げたのち、皆様からのご意見をいただきたいと思います。

議題3につきましては、学校部活動のあり方について、前回に引き続きご議論いただきたいと思いますと考えております。私からは、以上です。

金子委員長 ありがとうございます。続きまして、会議に先立ちまして、配付資料の確認を事務局からお願いします。

(配布資料の確認)

金子委員長 では、議題1「前回会議録の確認」です。まず前々回分、第2回の会議録及び資料について、承認後に修正がありましたので、リーフラスさんから説明をお願いします。

受託者（中野） はい、リーフラスの中野でございます。よろしくお願ひいたします。私より、第2回会議録の修正に関してご説明をさせていただきます。

7月16日の第2回検討委員会では、弊社より地域連携・移行に

ついてご説明をさせていただきました。その際、皆様により具体的なイメージを持っていただけるよう、現在の状況について、弊社で管理している情報やデータ等を基に、数値やグラフを用いてご説明いたしました。

修正につきましては、全データが小金井市のホームページに公開することに関して失念しており、事前のご相談ができておらず、大変申し訳ございません。

資料内容については、公開・非公開が問われた際、今後、その他情報の共有ができなくなってしまう恐れがあるため、今回会議録の修正対応とさせていただきました。

今後はこういったことがないよう、事前確認を徹底してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

金子委員長 続いて、前回分、第3回の会議録について事務局から説明をお願いします。

三浦課長 本日机上に、前回の会議録を配布させていただきました。前回の会議録について、皆様の校正を反映したものです。本日、皆様にご承認いただけましたら、この会議録を確定版とし、市役所の情報公開コーナー及びホームページにて公開させていただきたいと考えております。私からは以上でございます。

金子委員長 ありがとうございます。事前に送付しておりました資料をご確認いただいているかと思いますが、確定版として問題がないかどうか、ご意見をいただけますでしょうか。

特に問題がないようでしたら、この内容で確定とさせていただきます。ありがとうございます。続きまして、議題2「小金井市における学校部活動の地域連携について」です。リーフラスさんからご説明をお願いいたします。

受託者（富永） こんにちは、リーフラス株式会社の富永です。私からは、先程説明がありました、実証実験について、資料1から資料3の内容を基に説明をさせていただきます。

それでは「資料1 小金井市実証実験について」と記載されている

資料のご確認をお願いいたします。

まず、実証実験の目的についてお話しします。第3回検討委員会の際、実証実験の内容を紹介させていただきましたが、本実証実験では、部活動の外部指導者を活用し、学校と地域の連携を強化することで、以下の2つの成果を目指します。

1つ目は、生徒たちがより専門的で質の高い指導を受けられる環境を整えること。2つ目は、部活動顧問の先生方の負担軽減です。特に休日の時間的・精神的負担を和らげることで、学校全体の働き方改革にも貢献したいと考えています。

2ページ目に進みます。今回実証実験の対象校は、小金井市立緑中学校で実施をさせていただきます。また、部活動は男子バスケットボール部と女子バスケットボール部です。期間は、令和7年1月から3月までの約3ヶ月間、活動日は毎週土曜日で10回程度を予定しています。

続いて、今回の実証実験における具体的なスケジュールについてご案内いたします。①指導員の確定については、指導を担当する指導員は、11月29日（金）に確定済みです。②指導員と学校との顔合わせの日程は、明日の12月19日（木）に予定されています。この機会を通じて、事前に活動内容や流れについて共有を行います。③保護者への案内日は、年末の終業式までに案内をお届けする予定です。④活動開始と終了は、令和7年1月11日（土）に開始し、3月29日（土）に終了予定です。この間の土曜日を中心に全10回程度の活動が計画されています。⑤アンケート実施は、活動終了後に、生徒や保護者、顧問の先生方を対象にアンケートを実施し、今後の参考とさせていただきます。

以上が、実証実験に関する具体的なスケジュールとなります。このスケジュールに沿って準備を進めてまいりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

次に、運営体制についてご説明します。平日の活動はこれまで通り学校顧問の先生方が指導を担当しますが、土曜日のみ、顧問と連携の基、私たちリーフラス株式会社の指導員が指導を行い、運営をサポートいたします。

土曜日の活動では、男女それぞれ1名ずつの専門指導員を配置します。これにより、生徒たちが性別にかかわらず相談しやすい環境を整備し、より専門性の高い技術指導を提供します。また、リーフ

ラスの担当窓口が現場を巡回し、安全管理、顧問との連携、保護者対応の3つを中心にサポートを行います。

安全管理については、練習中の怪我や体調不良への対応を徹底し、顧問との連携では、学校側の指導方針に沿った形で活動を進め、日々の状況を共有します。保護者対応では、何かお困りのことがあれば速やかに対応できるよう、相談窓口を設置します。

3ページ目に進みます。個人情報についてです。緊急時には保護者様の緊急連絡先にすぐご連絡できるよう、Googleフォームを活用して必要情報をご提供いただきます。個人情報の管理については、細心の注意を払って取り扱いますのでご安心ください。

次に、実証実験後のアンケート調査についてご説明します。このアンケートは、生徒、保護者、学校顧問の先生方、それぞれを対象に行います。生徒には「新しい指導体制の満足度」や「技術向上の実感」について、保護者の皆様には「部活動の運営に対する安心感」や「指導内容への満足度」についてご意見を伺います。また、顧問の先生方には「土曜日の負担軽減」や「指導の効果」についてお答えいただき、結果をもとに、よりよい部活動運営モデルを検討していく予定です。こちらは後ほど紹介する資料3の内容に紐づきます。

最後に、本実証実験では、生徒、保護者、顧問の先生方それぞれに異なる期待や懸念があると考えています。まず、生徒の視点です。生徒たちは、専門的な指導を受けることで「技術が上達した」「バスケットボールがさらに楽しくなった」といったポジティブな成果が期待されます。一方で、これまで慣れ親しんだ顧問の先生ではなく、外部指導員による指導となるため、「やり方が変わって戸惑った」という声上がる可能性もあります。また、新しい指導員との関係を築くには少し時間がかかるかもしれません。

次に、保護者の皆様の視点です。保護者の方々にとっては、外部指導員が関わることで「子どもがより専門性の高い指導を受けられる」「学校の負担が軽減され、全体的に良い方向に進んでいる」といった期待がある一方で、「外部の人が入ることで、これまでの環境がどう変わるのか不安」「指導員と学校や保護者の連携が十分に取れるのか心配」という懸念もあるかもしれません。特に、外部指導員の指導スタイルや安全管理体制については、最初は慎重に見守られると予想されます。

そして、学校の顧問の先生方の視点についてです。休日の部活動

が外部指導員に任せられることで、「負担が減り、本来の教育活動に集中できる時間が増えた」という効果が期待されます。一方で、「緊急時にどう対応するか不安」「指導の質が学校の方針に合うか心配」という声もあるかもしれません。これらは、実際の運営や指導方針を意見交換し合うことでより良い体制になると考えています。

このように、今回の実証実験には期待されることも多い反面、新しい取り組みであるため、不安や懸念も少なからず生じると考えています。実験後には、生徒、保護者、顧問の先生方それぞれにアンケートをお願いし、率直なご意見をお伺いします。「何が良かったのか」「どの部分に課題があったのか」を丁寧に分析し、今後の運営体制や連携モデルの改善に役立てたいと考えております。

以上が資料1の説明となりました。ご質問やご不明点がございましたら、ぜひこの後の資料2、3の説明後質疑応答でお聞かせください。

続いて、「資料2 小金井市部活動に関するご案内」です。先ほどの実証実験の説明に続きまして、簡単にご案内いたします。この用紙には、実証実験の目的や背景について保護者様へ説明をする内容です。資料1の内容と重複してしまいましたが、部活動を地域に連携・移行する取り組みが全国的に進められており、今回の実証実験は教員の負担軽減と生徒たちの学びの充実を図るための第1歩としての取り組みの意義について、用紙でも改めて簡単にご説明しています。

ほかにも、具体的なスケジュール共有や運営体制についても記載しています。また、保護者の皆様へのお願いとして、緊急連絡先や必要な情報をご提供いただくため、Googleフォームへの登録をお願いしております。プライバシー保護には十分配慮しておりますので、安心してご記入いただければと思います。資料2の詳細については、ぜひ用紙をご確認ください。

最後は、「資料3【仮】実証実験アンケート内容」についてです。資料1の4ページ目で紹介しました、アンケート結果の仮定や予測を上げさせていただきましたが、詳しいアンケート内容を蓄積した書類となります。

確認をいただき、追加したい内容や気になる質問がありましたら、ぜひ率直なご意見をいただけると幸いです。

以上が議題2「小金井市における学校部活動の地域連携について」

となります。本実証実験によって生徒や先生など多方面によしとなり、地域としても新しい連携の形を構築するきっかけになればと思います。ご清聴ありがとうございました。

金子委員長 はい、ありがとうございました。それでは、今のご説明を踏まえて、実証実験を行うにあたってのアンケート内容について、皆様からご質問やご意見をいただければと思います。いつもの通り、お名前をおっしゃってからご発言をお願いいたします。皆様いかがでしょうか。

大林委員 はい、公募委員の大林です。これ、内容に関しては特に問題ないのですが、実証実験で大体どのくらいの予算がかかっているのか教えていただきたいです。というのも、「これ良かったね」という話になった時に、永続的に続けるために小金井市の予算が確保できるのかが気になります。

例えば、リーフラスさんをお願いするには予算的に厳しいとなった場合、全く別の事業者が入って、実証実験と同じ内容を予算の関係で実現できない、実証実験の意味が薄れてしまうと思います。ですので、実証実験の費用にいくらかかったか。また、永続的に現実的な範囲でリーフラスさんをお願いできるような予算が組めるのかどうか、わかる範囲で教えていただけますでしょうか。

金子委員長 事務局はいかがでしょう。実証実験ということで、実施予算とは別の形で行われているかとは思いますが。

三浦課長 ご質問ありがとうございます。予算についてのお話ですが、今先生からもお話がありました通り、今回は実証実験という枠組みで行っておりますので、新たにこの科目について予算措置を行ったものではなく、リーフラスさんに依頼しているコンサルティング業務の一環として組み込まれている費用でございます。

したがって、小金井市が新たに予算措置をしたわけではないという点を、まずご説明申し上げます。その上で、今回のような規模で外部指導員を導入した場合、どのくらいの費用がかかるのか、大まかにお答えを願いますか。

受託者（戸所） リーフラスの戸所です。今回、緑中学校で行わせていただく規模感でお伝えすると、指導員2名を配置するモデルで、人件費を含めた費用として、大体30万から50万程度を見込んでおります。

この金額には、保護者管理のためのシステムを導入するかどうかによって変動する部分もございます。以上です。

金子委員長 ありがとうございます。それは、例えば10回の活動を行った場合の費用ということでしょうか。

受託者（戸所） はい、その通りです。

金子委員長 調査を行うためではなく、実際に活動を実施するための費用という理解でよろしいでしょうか。

受託者（戸所） 実証実験で指導員を配置していくモデルの金額です。

金子委員長 実証実験は、この後ずっと続けて行うわけではないと思います。いずれは実際の運営に移行する話になると思います。その場合、別途予算を組む必要が出てくるのではないかと思いますよ。そういう意味合いですか。

大林委員 そうですね。その実証実験と実際の運営が異なるのは承知しております。ただ、実際に運営をすることを見越して実験を行っているわけですので、予算面もある程度考慮しないと、現実可能かどうかという点も含めて実証実験だと思います。そのため、市の予算編成や金額設定を踏まえて、例えばリーフラスさんにこの形で依頼し、指導員を配置して、部活動を実施することが現実的に可能なのかを確認したいです。

三浦課長 ご質問ありがとうございます。なかなかお答えしづらいところもございますが、一般的に予算を組む段階では、規模感、つまり参加される生徒の人数や実施回数、派遣いただく指導員の人数などを見積もりを取るようになります。

そのため、現時点では、この規模感で進められるかどうかについて明確にお答えするのは難しい状況です。ただ、今後、地域の団体

様や企業の方々と協力して進める形になれば、その際には予算措置を進めざるを得ないと考えています。

金子委員長 市長や議会での判断が必要になる場合もありますよね。

大林委員 またこの形になった時に、違った形になる可能性もありますよね。例えば、地域の方が参加した場合、同じようなアンケート結果にはならないと思います。やはり、人が異なれば結果も変わるため、その点も考慮しなければならないと思います。

金子委員長 結果として、「これは実現できるけれども、費用がかかりすぎる」という現実が見えてくる場合もあるかと思います。それでも、それは仕方のないことです。実証実験の目的がそういうものですので、コスト面については当然考えられることだと思います。また、指導員が2人必要なのか、それとも1人で十分なのか、といった点が今後判断されていくのではないかと思います。

調査について、私からいくつか質問させていただきたいと思います。今おっしゃられた内容とも関係しますが、今回の調査において、あまりプラス面ばかりを聞いても意味がないのではないかと思います。むしろ、このやり方でどのような問題が発生するのかを検証するべきだと思います。そのためのポイントとして、例えば生徒の満足度が下がらないようにするためにはどうすれば良いか、また先生方が働きやすくなる環境を実現できるかどうか、そういった点が重要だと思います。プラスの成果を見るだけでなく、むしろマイナス面を浮き彫りにする調査が必要なのではないかと考えています。あと、ごめんなさい、アンケート内容は仮だと思いますが、質問について少し気になる点があります。いわゆる「ダブルバーレル」と呼ばれる、2つの質問が含まれてしまっている文言が見受けられるように思います。

例えば「生徒の意見を受け入れ、適切なアドバイスをした」という設問ですが、これでは生徒側が答えにくい内容になっています。このような場合、どちらかを聞くか、または別々に設問を分けて聞く必要があるのではないのでしょうか。

また、対象規模についても考えた時に、アンケートが適切なのかを考えた方がよいと思います。特に先生側ですが、例えば顧問の先

生が1人か2人の場合、アンケートを取っても統計的に意味のある数字は出てこない可能性があります。その場合は、むしろヒアリングを行った方が良いのではないかとこの考えもあります。生徒については、現在何名くらいですか。

瀬沼委員 男子バスケ部は現在16名です。女子バスケ部の方は30名弱で、合わせて約45名になります。

金子委員長 なるほど。生徒が45名という規模だと、定量的な調査をしても、一定程度の傾向しか見えないのではないかと思います。ですので、そのあたりをどのように調査するかを考える必要があるかと思えます。アンケートを行った後に、一部の生徒や指導者に対してヒアリングを行うような方法を組み合わせるのも有効ではないかと思えます。また、指導者側の意見もきちんと収集するべきではないでしょうか。

実際にやってみた結果、どのように感じたかという点を集めておかないと、調査として不十分になってしまうのではないかと思います。すみません、私は大学に所属していることもあり、調査をしっかりと行うためにはどうすべきかという視点でお話させていただきました。

川原委員 質問してもよろしいでしょうか。これは指導員2名が紹介されていますが、男子バスケットボールに1名、女子バスケットボールに1名、それぞれ配置されるのか、それともこの2名が男女両方を担当する形態になるのか教えてください。また、先ほど予算が30万から50万という話がありましたが、これは2名でそれぞれ25万円ずつという形なのか、具体的にどのような体制でこの指導を行うのかお聞きしたいです。

受託者（富永） ありがとうございます。富永です。今回、実際にバスケットボールの指導員が決まった際に、弊社と学校様が顔合わせを行いました。その中で、どのような形で配置を行うかを話し合いました。その結果、男子バスケットボールと女子バスケットボールにそれぞれ1名ずつ配置する形となりました。

実際に、男子バスケ部と女子バスケ部の活動時間が同じではなく、

時間帯が異なるため、2名を1人ずつ配置することを考えています。ただし、実際に生徒との初回顔合わせを行った際、弊社が雇用している指導員が男子・女子どちらに適しているかを見極め、その後で最終的な配置を決定する予定です。

また、初回の活動については、男子・女子どちらのチームにも2名体制で対応し、どちらのチームにも適応できるように進めたいと考えております。ただし、基本的には1名ずつの配置という形で進行していきます。

予算につきましては、今回の実証実験の枠組みで2名を配置する費用が30万から50万円という形で計上されています。この金額は2名それぞれが30万円ずつではなく、トータルで30万から50万円という認識でございます。以上です。

金子委員長 繰り返しになりますが、これは人件費として30万から50万という話ではなく、調査全体としての費用が30万から50万ということではよろしいでしょうか。アンケートや分析も含めた金額という理解で問題ないでしょうか。

三浦課長 はい、その通りでございます。

依田委員 すみません、依田です。人件費についてですが、具体的にどのくらいの金額になるのか教えていただけますか。ガイドラインで示されているような、例えば1コマ3時間でいくらといった基準があるかと思います。ちなみにそのあたりはどうなっていますでしょうか。

受託者（戸所） ありがとうございます。指導者の単価は地域ごとに設定されています。部活動の実施時間に合わせて計算する形になっていますので、今回の規模感では、主に土曜日・日曜日に3時間程度の活動を10回程度実施する想定です。

指導員費としては、1回あたり10万から15万円程度を見込んでいます。また、交通費や配置にあたっての事前研修費なども加味されます。そのため、練習の活動に対する費用としてはおおよそ15万円程度を見積もっています。これに加え、準備費として数万円がさらに乗るイメージです。

依田委員 また余計な話をしてしまいましたが、イメージとして、人件費自体はおそらく安価で、それに対していろいろな経費が上乘せされているのだろうと思います。だから、このくらいの額になるのは、イメージとして理解できます。そこで、ガイドラインに示されている内容と近いものなのかどうかを単純にお聞きしたいと思いました。今のご説明では、人件費に経費が乗って、たとえば15万円という話になっていると思います。その辺りの詳細は話しにくいかもしれませんが、実証試験という性質上、人件費単価自体は比較的低くても、それにいろいろなコストが加わり、結果として2.5倍や3倍になるのは、普通のことだと思っています。以上です。

川原委員 川原です。前回の会議で、次回の会議で答えますとなっていた、小金井市で実際に行われている部活動指導員や外部指導員に関する話がありました。その際の金額や条件について、今日の会議で答えますとおっしゃっていたところも、実際にリーフラスさんが説明されたような「3時間で15万円」といった例と、現在、小金井市で予算を立てて実施している金額との間にどの程度の差があるのか。もし回答が準備できていればお聞かせいただけますでしょうか。

田村主事 前回のご質問について、最後にお答えしようと思っておりました。まず、このお話が今の内容とつながるかどうかは分かりませんが、1つ目の質問として、部活動指導員1人あたりの勤務時間を減らすことで指導員の人数を増やせないか、というご提案がありました。これに関してですが、現在、財政課に認められている部活動指導員の人数は12名となっております。そのため、現状では人数を増やすことは難しい状況です。

川原委員 来年度も予算が決まっているのですか。

田村主事 予算がまだ確定していないため、12名という人数がそのまま維持されるかどうか未定です。ただし、こちらとしては、指導員の人数を増やしていきたいという思いもありますが、現時点では何とも言えない状況です。

もう1つの質問は、部活動の種類やボーナスについてでした。

川原委員 3,000円の金額について板垣先生がお話していたことですか。

板垣委員 3,000円は違います。我々の特勤手当で、3時間以上勤務した場合、交通費や昼食代は自腹となりますが、3,000円の特勤手当が教員に支払われます。

川原委員 部活動指導員と外部指導員で立場が違うということですか。

田村主事 そうですね。市の部活動ガイドラインに基づいて活動している場合には、ボーナスが支給される勤務時間数には達しないため、基本的に部活動指導員にはボーナスの支給対象にはなりません。

前回の質問がこれに該当するかは不明な部分もありますが、議事録を改めて確認し、違っている場合には訂正させていただきます。

鈴木委員 どうもすみません。この質問をしたのは私なのですが、私自身も記憶が曖昧になっている部分があるかもしれません。

12名という枠は増やせないということなので、働き方の形を変えてボーナスが支払われるのであれば、勤務時間を制限し、ボーナス支払基準に達しない範囲で働いていただくことで、その分を同じ財源から他の方の雇用に充てれば、人数を増やせるのではないかという趣旨で質問させていただきました。ボーナスに関しては、前回の会議で「ボーナスを支払う基準に達していないため支払われていない」というご回答をいただきました。また、単純に他の自治体のように時給制で雇用する方法についてもお尋ねしたところ、学校に勤務していただく人材には、ある程度の社会的ステータスを与えなければ難しいということで、任期付きの雇用を継続するべきだというお話があったと理解しています。それで間違いないでしょうか。

三浦課長 もう一度ご質問の趣旨を確認させていただいてもよろしいでしょうか。

鈴木委員 市役所の保育士さんですと、決まった時間の3時間や4時間だけ働いて時給を受け取る方がいらっしゃいます。それとは別に、一定の時間を働いていただいて、ミニボーナスがつく制度や、さらにフルタイムで勤務し、福利厚生も含めた給与を受け取る方もいると理

解しています。このような形で、部活動指導員が任期付き職員として採用されていると聞いています。それであれば、指導員の方々はどのカテゴリーに該当するのでしょうか。単純に時給だけで支払われるのであれば、ボーナスを支払わない形で勤務時間を調整し、その分の財源を他の指導員の雇用に充てることで、指導員の人数を増やせるのではないかという趣旨で質問をいたしました。

また、前回の会議終了後にいただいた説明では、「ボーナスの基準に達している方はいないため、すべて時給制の支払いのみ」と伺いました。そうであれば、時給制の雇用形態でもう少し人数を増やすことはできないでしょうか、と質問しました。その際、非公式なご回答をいただきました。お金や人数、費用に関する具体的な内容については、次回の会議で宿題として扱うという形で話が終わったと記憶しています。この趣旨で間違いないでしょうか。

三浦課長

それではご説明をさせていただきます。まず、市役所の制度における「任期付き職員」とは全く別の仕組みでございます。任期付き職員という言葉は、弁護士などを採用するときに、一定の任期を設定して採用される職員を指します。今回、鈴木委員がお話いただいているのは、「会計年度任用職員」という制度に該当するのではないかと思います。

この制度には、月給制と時給制の2種類がございます。月給制の場合は、おおむね週30時間以上の勤務でございます。時給制の場合は、1時間ごとに給与をお支払いしている形で、部活動指導員の方々は、このカテゴリーに該当すると考えております。

また、ボーナスが支払われる場合についてですが、時給制の中でも一定の勤務時間以上の方に対して支払われる旨の規定がございます。ただ、現状ではその基準に達していないため、ボーナスの支払いは行われていないということになります。

鈴木委員

私が任期付き職員と会計年度任用職員を混同していたということですね。

鈴木委員

ありがとうございます。また質問させてください。

金子委員長

ありがとうございます。それでは砂子委員お願いいたします。

砂子委員

公募委員の砂子です。3点ほど質問させていただきます。

今回、小金井市のすべての学校から緑中に生徒が参加するのではなくて、緑中の部活動に対しての対象となるのでしょうか。それは、今行っている外部指導員との違いについても教えていただければと思います

2つ目は、今回選ばれた指導者についてですが、これは実証実験に関するものなので、リーフラスさんに登録されているかどうかは分かりませんが、選定されたということは、実際に開始される際にはすべてリーフラスさんの指導員というわけではないという理解でよろしいでしょうか。

最後に、前回の会議で同時進行に剣道部の話がありまして、途中まで二中の先生にも話が進んでいました。私たちも学校と連携して進めていた中で、今回はバスケットが選定されているので、その後の対応についても教えていただければと思います。

受託者（富永） ありがとうございます。それでは、1つ目と2つ目についてリーフラスより返答させていただきます。

まず、今回、緑中学校単体での実施となった経緯ですが、市の方と連携しこの形に至りました。対象となる外部指導員が地域の方ではなく、弊社が対応することになったのは、実証実験までの期間が短かったため、実施準備や指導者の選定に時間が足りなかったという点が懸念点としてあります。また、通常、研修の時間を15時間設け、顔合わせを経て実際の現場に対応することや、実証実験が3ヶ月間の期間に限られているため、今回は弊社の指導経験のある方を選定させていただきました。

次に、実証実験がスタートした後、どのように進むかという点ですが、学校側が雇用した指導員がそのままシフト変更を行う場合もありますし、地域の方が弊社に雇用されて配置される形もあります。また、種目によっては地域で指導員が不足している場合もあるため、弊社で採用し、研修後に配置することになります。このように、完全な弊社の採用ではなく、地域との連携も図りながら進めていく形となります。以上です。

三浦課長

1点目の補足ですが、部活動指導員との違いについては緑中学校

のバスケ部では、現在部活動指導員は採用されていないとのことです。そのため、生徒の皆様から見ると、形態としては外部指導員と関係が非常に近い形になりますが、今回は外部の方を入れるということで、実証実験として進めていきたいと考えています。

3点目、二中についてですが、調整が途中で途切れてしまい、大変申し訳ございませんでした。私どもとすると、地域の団体の皆様とも連携しながら実証実験を進めたいと考えております。そのため、少しお時間をいただきまして、年明けに再度ご相談にお伺いさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

受託者（中野） 2点目の「今後の方向性」に関してですが、今後どのように進めていくのかという点について、雇用形態の方向性によって変わってくる部分が大いだと思います。現時点では、まずその方向性が決まっていないため、それに応じた進め方になります。

具体的には、委託で行うのか、地域の方を直雇用で進めていくのか、という点で大きく異なると思います。今、富永が説明した内容は、委託で進める場合の話でした。まず小金井市としてどのような形が最適なのかを、今回の実証実験を通じて見出していく必要があると考えています。

最終的な方向性については、今後さらに議論を重ねながら形作っていく形になると思います。地域の方を採用しない、というわけではなく、それも含めてどのような形が良いのかを実証実験で確認している段階です。

金子委員長 委託に決まったとしても、必ずしもリーフラスさんが担当するとは限らない話だと思います。基本的には、まだ方向性を検討している段階です。以上です。

板垣委員 小金井二中、板垣です。今回の実証実験についてですが、人件費に関する議論は全く関係のない話で、実際、平日に見ていない外部の人材に指導を依頼した際に、どのような課題が起り得るのかに焦点を当てた実験だと認識しています。次回が2月13日ということなので、その時点で進捗状況をお伺いできるのではないかと思います。もし今自分の学校でこの実験を行った際に起り得る課題

についてもお聞かせいただきたいです。

例えば、アンケート項目に「チームとしての技術の向上を実感している」という内容がありましたが、チームとしての技術向上を実験するには、対外試合を行わないと判断しづらい部分があると思います。活動時間や場所については、基本的に緑中の土曜日のみで行うのか、またその際の相手チームのマネジメントは平日に教員の方が通常行っているかと思いますが、それがこの実験期間中にも可能なのか、といった点が気になります。技術向上の評価は、試合をしてみないと分からない部分が多いと思うので、そのあたりのマネジメントがどうなるのかが1点目です。月1回か2回練習試合を行う部活動が、3ヶ月間土曜日の活動だけで進むとなると状況がかなり変わるのではないのでしょうか。その辺りの考えをお聞きしたいと思います。

また、緑中で土曜日にバスケットボールのための時間を確保している場合、他の部活動が体育館で練習することが難しくなるのかどうか、その調整がどのように行われているのかも知りたいです。

さらに、部活動は学校生活の一部と考えます。そのため、例えば部活動中に生活指導の必要が出てきたり、いじめ事案が発生したりする場合も考えられます。部活中に何かあった際、平日に教員が対応する必要が生じることもあると思いますが、そうした場合の連携をどのようにする予定なのか。ここが3点目の疑問です。具体的には、指導者から学校へ情報が伝わる際に、外部業者を挟むことで情報連携が難しくなる懸念があります。例えば、リーフラスさんが間に入ることで、人間関係のトラブルや指導の様子などの情報が十分に共有されなくなるリスクがあるのではないのでしょうか。

最後に、もし怪我が発生した場合、その対応はどのようになるのでしょうか。スポーツ振興保険を利用するのか、それとも別途リーフラスさんの方で用意される保険を利用するのかの4点です。

以上、トレーニングマッチの実施可能性、活動時間・場所の無理の有無、生活指導事案への対応、そして怪我への対応について、現段階でお聞かせいただける部分があれば教えていただけますでしょうか。

受託者（戸所） 私からご説明させていただきます。

まず、1点目の練習試合についてですが、今回の実証実験では、

土日の活動を弊社が担当しますが、その期間中に大会や練習試合が予定されている場合、学校側で準備していただいた部分については、弊社が新たにチャレンジすることは含まれていません。しかし、これに関しても実証実験の中でトライすることは可能です。

2点目の学校側の支障についてですが、体育館を利用している活動の範囲内で調整を進めていくと伺っているため、特に他の部活動を止めることはないと伺っています。

瀬沼委員

本校の体育館部活は、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部の3つしかないため、土日は8時から11時、11時から14時、14時から17時の3回で行っているため、バスケ部が活動しても、女子バレーボール部が残りの時間に入ることができるため、特に支障はないと考えています。以上です。

受託者（戸所） ありがとうございます。

続いて、3点目の生活指導を含む部活動中のトラブルに関してですが、最終的には先生方や学校側と連携し、対応していくことになります。ご懸念の通り、弊社のスタッフ、統括責任者を挟むことによってフットワークが重くなる場所も1つの懸念点となる可能性があります。部活終了後の雇用に関して派遣の形態も絡んでくるため、状況に応じて弊社の社員統括責任者が関与し、現場状況を見極めたうえで学校への報告を行います。指導員との面談や打ち合わせも行い、問題が生じないように対応します。

次に、4点目の保険に関してですが、今回の実証実験においては学校のスポーツ振興保険を利用し、進めていく形となります。

金子委員長

ありがとうございました。ご懸念の通り、そういう問題が出てきたときに、実際に対応が難しいケースが出てくる可能性もあると考えます。

それでは実証実験は1月から始まるということで、次回の会議は実証実験が進行している中ですので、途中経過をご報告できると思いますが、最終的な結果はメールもしくは来年度にご報告することになるかと思えます。本日もたくさんのご意見、ありがとうございました。いただいた多くのご意見を踏まえ、実証実験を進めていき

たいと思いますので、よろしくお願いします。

以上で議題の2を終了させていただきます。

三浦課長

1点だけ補足です。ただいまリーフラスさんとも確認し、資料3についてです。先ほど金子委員長からもご意見いただきました、アンケートを使うのは最終3月になりますので、次回の委員会でフィードバックを行います。大変恐縮ですが、その前に皆様も一度確認していただけると幸いです。メールでフォーマットをお送りし、意見をいただけるようにします。

金子委員長

先生方へのアンケート形式があまり効果的でないと感じますが、アンケートだけでなく、ヒアリングの方法も含めて、問題点をきちんと把握することが重要です。

次に、議題3についてです。部活動のあり方について、残り20分ですが、少し前向きといいますか、もう少し抽象的に議論したいと思います。現在の実証実験は、喫緊の課題である「せめて土日だけでも先生方の負担を軽減できないか」という点に対処するために、どのような方法が可能かを検討しているものだと思います。近年、ニュースなどで部活動が多く取り上げられ、さまざまな動きが出てきています。それらを踏まえ、小金井市として「部活動をどのようにしていくのか」という大きな方向性を考えていく必要があると考えています。

先ほど触れた予算の話についてですが、まずビジョンを明確に立てた上で、そのビジョンに向けた施策を進める中で初めて、どの程度の予算が必要なのかが明らかになると思います。その際、議会や委員会での議論が不可欠になると思います。

この委員会としても、「どのような部活動を目指すのか」というビジョンをしっかりと示せるようにしたいと考えています。そのために、少しだけ私の方から部活動についてお話をさせていただき、短い時間にはなりますが、皆様と一緒にビジョンを考える時間を設けられればと思います。

今回、案をいただいておりますので、グループで議論のベースとして活用しながら進めていただければと思います。それでは、簡単にご説明させていただきますが、時間が限られているため簡潔に進めさせていただきます。

学芸大学にて部活動に関するシンポジウムを開催いたしました。その際の資料を中心に、今回の議論に役立てる形でお話をさせていただきます。これまでの議論を整理したいと思います。文科省やスポーツ庁が発表した内容を踏まえると、学校における部活動改革の必要性が議論されています。部活動の意義は認められているものの、少子化の進展に伴い部活動自体の存続が厳しくなっている点が課題として挙げられています。また、専門性に関係なく先生方が顧問を務めることが継続しにくい状況も指摘されています。

一方で、少子化が進む中でも生徒がスポーツや文化活動に親しむ機会を確保する必要があります。さらに、「地域の子どもたちを地域で育てる」という意識のもと、部活動を進めることが求められています。もう1つ重要なのは、地域にとってのまちづくりや、地域の文化・スポーツ活動を維持することです。これらを切り離して考えるのではなく、全体として捉える必要があるということが背景にあると思います。

文科省が提示している学習指導要領には部活動についても触れられています。「教科課程外の学校教育活動は教育課程との関連が図られるように留意すること」と記載があるのみで、内容が非常に曖昧です。「教科課程外だけど学校教育活動に含まれる」という解釈ができる書き方になっています。

一方で、スポーツ庁はもう少し踏み込んだ見解を示しています。「部活動は教育課程外の活動であり、設置には法令上の義務はない」とされており、学校側の判断で実施しないことも可能とされています。また、地域移行が完了するまでの間は学校業務として行われていますが、必ずしも教師が担当する必要はない業務であるため、その点を意識して進めるべきだという見解です。

資料にいくつかのパターンが紹介されています。例えば、市町村が主体となる場合、地域のスポーツ団体が担当する場合、また市町村がリーフラスさんのような団体に委託する場合など、様々な形が想定されています。これらの方法がスポーツ系・文化系でそれぞれ提示されており、国の方針としても幅広い選択肢が示されています。

最近の話題では、京都市が学校に所属する部活動は全てやめ、再来年度部活動は地域に移行する方針を発表しました。

また、北海道の安平町では、令和7年（2025年）までに部活動の地域移行を完了させる予定です。この地域では住民説明会が行

われるとともに、NPOが地域の子どもたちの活動や文化の振興を担う形で進められています。興味深いのは、教育長との話の中で人口が少ないため、大人がサッカーをすることで地域全体を巻き込む文化が生まれているという点でした。安平町では、部活動をするのではなく、みんなで一緒にサッカーをやろうという状況で、教育長もそのような地域の特色を前向きに捉えておられました。

逆に熊本市は、学校部活動の地域移行をやりません、という市町村もあります。熊本市の方はやりません、というふうに市町村が設定したのですが、まず皆様見てみてください。1600人ぐらい外部指導員を確保するという形で、それが学校から手放しているかどうか、なんか微妙なところだなと思います。では、1600人雇って先生方の負担がどれだけ減るのか。そのまま1600人にやらせるのであれば、それは地域移行なんじゃないのか、というような話です。新しい部活動みたいな形で、ここでやっているのは、学校を超えて部活動をすることにします、みたいなことをやっていました。少ない教育に関してはまたがって活動をやります、というような形で話をしていました。

さっき言ったように、対症療法的なことも必要ですが、熊本市や神戸市みたいに大きな方向性として、部活動をどうしていくのかというのを出さないといけないだろうと思っています。特にこの委員会では、ぜひそこが出せるといいなと思いますし、最終的に来年度までにそこが出せるといいのかなと思います。

あと少し後送りされそうですが、国の方もなかなか進まないもので、令和7年までと言っていたものが、少し後ろ倒しになるのではないかと、地域移行の完了みたいなことが後ろにずれると聞いております。

そもそも部活動ってなんだっけ、ということでお話をさせてもらいたいと思います。個別最適な学びというのが先生方はたくさん言われていると思います。2つあります。

1つ目は指導の個別化と2つ目は学習の個性化があります。簡単に個別最適な学びってどういうことなのか、ということを説明させていただきます。元々学校は学習する内容が決まっています。学習指導要領に書かれていて、これをやりなさいってということが決まっています。それを一斉授業の場合は、一定の方向で教えます。一通りの方向で教えますということが一斉授業として行われていたのですが、どうやらそれでは理解しきれない子どもたちが出てきてい

る、というところで指導の個別化をしましょう、と文科省が言っています。

間違っていないのは、学習内容を変えなさいと言っているわけではなく、同じ学習内容のやり方を変えて教えてあげてください、というのが指導の個別化、ということになります。

公平の例をよく出しているのですが、誰もが野球を見られるようにすることを立てた時に、箱が1つで大丈夫な子もいれば、箱が2ついる子もいるし、箱がなくても大丈夫な子もいます。まずは、全員が向こう側を見るようにするにはどうしたらいいのかっていうのが資料になります。それを基に学校の先生方によく伝えているのですが、日本は学力が世界で1番高い国です。本当に世界で国的に見たら1番高いです。なので、学校において学力をつけるに関して、とてもうまく先生方の努力で行われているし、実は最近出たニュースで、大人になっても日本は世界1学力が高いとあります。すごく面白いなと思ったのは、フィンランドと日本は全く違う方法を取っているということです。こんなことが行われているのですが、やはりそれだけではダメなんじゃないのかということで、学習の個性化ということが言われていて、こちらはまさに個性化した学習内容。それぞれの1人1人の子どもたちが興味関心を持っていることを学んでいくことが学習の個性化です。

実は、公平じゃなくて平等と同じようなことが起きるといのは、真ん中にいる子は、この状態でも、あんな早いのをどうやったら投げられるだろうと問いが立ちますし、ボールが当たらないようにするにはどうしたらいいかと問いが立ちますし、小さい子は当然壁の向こうをどうやったら見ることができるとかという問いが立つので、この状況でいいじゃないか、というのが学習の個性化です。全員が同じ場所に行く必要や全員が同じ目的を達成する必要はなくて、それぞれがやりたい問いを持って、それぞれの問いを学んでいけばいいじゃないかというのが学習の個性化です。

これを本当に学校でやるのかっていうのは、私はすごく言っていて、学習内容をあれだけ出しているのにここまでやるのかと思っています。この間、少しお話をしたかと思いますが、実は子どもは学校での学びというのは、さっき、全員が見るようにするにはやらなければいけない学びなので、必ずしも全部興味を持っているわけじゃありません。でも、子どもたちはそれだけじゃなくて、主体的に

学んでいて、まさに部活は本来なら主体的な学びのところで自分たちがやりたいことをやっているというのが、部活動だと思います。

そして、学校でそれができるかっていうと、教科教育の中では、子どもたちが、科学部だったとしても、理科をもっとやりたいと思っても理科の時間は限りがあり、もっと理科やりたいっていうことはできないので、まさにそれが、主体的な学びにつながると思います。このような教科教育の中では、もっと学びたいとか、もっとやりたいってことには答えてあげられないので、それが総合的な学習の時間みたいなものが今必要とされています。

次期学習指導要領は、もう少しここが重点化されていくといわれており、これからどうなるかわかりませんが、基本的には、主体的な学びというものがよりクローズアップされていくと考えられています。子どもたちが主体的に学べることがすごく重要なのではないのでしょうか。これが部活動の個別最適化に関わるのかなと思います。先ほどもお話しした通り、1人1人がやりたいことは全員異なります。そういう前提に立って部活動を考えていかなければならないのが基本ではないかと思っています。

その際に、指導者が必要なのか、という問題があります。すでに主体的に学ぼうと思っている子どもたちに対しては、むしろ指導者というよりは伴走者が必要なのではないのでしょうか。特に探求的な学びにおいては、先生が何かを教えるというのではなく、一緒にやってくれる大人が必要になるのではないかと思います。

これはまだ本当に構想段階なのですが、学芸大の中に「アート・アスレチック教育センター」という組織が設立され、このセンターでは、アートやアスレチックの文化振興をどのように進めていけるかを検討しています。

話題の1つとして挙げたのが、活動場所についてです。大学にも公園にも学校にも活動場所があるものの、それらが一体的に管理されていないため、意外と空いている時間が多いという現状があります。例えば、大学のグラウンドではサッカー部とラグビー部が交代で使用していますが、学校や大学のプールやグラウンドをもっと柔軟に活用することも十分可能性があるのではないかと考えています。また、指導者に関してですが、小金井市には多くの大学があるので、学生を考えたら指導者の卵とも言える学生たちが大勢いて、学芸大には教育マインドを持った学生も多くいるため、これもうま

くシステム化すれば十分なリソースを確保できるのではないかと思います。

私が1番重要だと思うのはコーディネート機能です。「これをやりたいなら、君はここへ行ったらいいよ」ということを教えてくれる人が必要です。子どもが自分でそれを見つけるのは難しいので、この部分を担うのが、安平町のNPOが行っていることだと思います。こうした仕組みを作れると良いなと思います。

最後に、部活動に関する素朴な疑問についてお話しします。「そもそも先生って何をする人でしたっけ」という問いです。文科省によると、部活動は教育課程外の活動とされています。やはり先生の本来の仕事は教科や教育課程を教えることであり、それがスポーツ庁の見解でも示されています。伴走者のような支援者が求められる中で、支援にどのような能力が必要なのかをこれから具体的に考えていく必要があるのではないかと思います。

今私の方で考えているのは、伴走者が持つべき力とは何かという点です。それについて研究をさせていただいています。こうした力はもちろん先生方にも持っていただきたいものですし、スポーツの分野で言うと、コーチという考え方が出てきています。指導者がこのような力を本来持っているべきだという話です。

続いて、いくつか素朴な疑問を挙げたいと思います。主体的で探求的な学びを目指すべき部活動が、1番教授的な教え方に偏っていませんか。未だに指導者という言葉が頻繁に使われていることが、現状を表しているように思います。これは変えていく必要があるのではないのでしょうか。また、小学生の間はみんな地域で文化活動やスポーツ活動を行っていますが、中学生以上になると急に学校に所属してそれを行うようになります。この点が非常に不思議だと感じています。例えば、小学校ではたくさんの野球チームが活動していますが、中学校になるとその数が激減します。この理由を改めて考えてみるべきではないのでしょうか。

実際に、本町小学校をベースに、「チャレンジ部」という活動が月に2、3回行われています。子どもたちがやりたいことを大学生が支援しながら進めるという形です。例えば、紙飛行機を作りたいとか、バンドをやりたいという子が集まり、大人がそれを支援していました。こうした取り組みがさらに発展できるのではないかと思います。

また、学芸大では「エキスペイグラウンド」という取り組みを進めています。ここでは大人たちがやりたいことを主体的に取り組む場を設け、その中で子どもたち向けの活動ができるかどうかを考えています。このラボでは現在50個ほどプロジェクトが立ち上がっており、大学の先生や学生がやりたいことを持ち寄って進めています。特に指導者として大学生や教員がいなくても、大学教員が必ずサポートに入るといった形で運営されています。

ただ、文科省の指針が曖昧であるため、部活動に関して誰が最終的に決定を下すのかが定まっていない状況です。例えば、学校が決めるのか、まちづくりの視点から生涯学習課が決めるのか、あるいは学校運営協議会が決めるのか。この点が全国的に整理されておらず、改革が進まない原因になっているように思います。

この委員会でも、小金井市としての方向性を議会に提案し、それをベースに「こういう形にする」と決めていく必要があります。場合によっては、学校運営協議会で決定する形もあり得るでしょう。コミュニティスクールを進める以上、各学校が独自に考えて進めていく方法も可能ですし、学校全体として統一的に進める方法も検討すべきです。

最後に皆様にビジョンを考えていただきたいと思います。いただいたビジョン案として「子どもたちが作り、動かし、楽しむ部活動」というものがあります。このようなビジョンが立つことで、具体的な議論が進められるようになると良いと思います。学校について話し合った際に、先生方と共有したビジョンの1つが「学校は正解を学ぶ場ではなく、好きなことを学ぶ場である」というものでした。このような未来のビジョンを基に、今日もさまざまな情報をインプットした上で、皆様に議論を進めていただければと思います。年度内に大まかな方向性を見出し、来年度に具体化を進める形が理想です。

北海道安平町の教育長が面白いことを言っていました。1つは「やれないことはやれない」と明確にする必要があるということです。令和7年までに部活動の地域移行を完了させる方針を打ち出し、それに向けて整わない部活動はやらないと決めたそうです。また、町でできない活動は隣町に移し、スクールバスで送迎する形を取っています。

時間が限られていますが、残りの時間で議論を進めていただき、

「どういう部活動が理想的なのか」というテーマについて話し合ってください。夢を描く形で、先生方が「こんな姿になりたい」という思いを共有していただけると良いと思います。それでは話し合いを開始してください。

(15分 グループワーク)

金子委員長 20時10分になりました。時間が過ぎてしまいましたて申し訳ございません。これまでの議論を共有できればと思います。

瀬沼委員 部活動の方向性について話し合った結果、小金井市独自のモデルを示すことが重要だという結論に至りました。過去2年間の議論を通じて、小金井市の持つ資源を最大限に活用し、他の市では実現できないようなモデルケースを作り上げることができたらいいなという話でまとまりました。もちろん、子どもによっては、高いレベルを目指す子や、中学校で初めて自分の興味を探し始める子がいて、差がいろいろある中で何ができるか考えた時に、1つあげるとしたら学芸大学の人材の豊富さや、教育に熱心な若い力が活かせる点が、小金井市の強みとなると考えています。それがどういう形で部活動に反映されるかは、また話し合う必要があるとは思いますが、小金井の特性を活かした温かみのあるものができれば良いなという話で終わりました。以上です。

金子委員長 安平市の市長が言っていた「やれないものはやれない」という言葉は、逆に言うと、地域の特性を活かし、地域でできることをやりましょうということだと思います。

大林委員 議論が広がってしまい恐縮ですが、指導というのは技術を教えるだけではないという点が挙がりました。外部指導者であろうと教員であろうと同じことで、人間教育も含めた部分を担う必要があるという意見が出ました。以上です。

金子委員長 ありがとうございます。特にコーチングという考え方が主流になってきている中で、指導とはどう引き出していくかという視点が重要になっているのではないのでしょうか。スポーツのコーチは引き出

し役です。例えば、フェデラーのコーチはフェデラーよりテニスが上手いわけではありませんが、相談役として彼を支えています。野球でも同様で、コーチが選手より技術的に優れているかどうかは問題ではありません。こうした考えを部活動にも反映できると良いと思いました。

天本委員

我々のチームでは、ビジョンを考える際に「部活動の目的意識をどこに持つべきか」を話し合いました。教員としては、子どもたちの成長や人間形成を目指したいと考えがちですが、自分が子どもの頃に部活動をしていた理由を思い出すと、「強くなりたい」「上手くなりたい」というシンプルな動機でした。気分転換でバッティングを楽しむ程度なら、大人が指導する必要もなく、場所さえあれば十分なのではないかという意見も出ました。ただ、それではこれまでの部活動の意義が失われるのではないかとも思いました。人材や予算の課題を踏まえ、持続可能な部活動をどう作るかが重要だという結論になりました。以上です。

金子委員長

私の専門分野である、遊びに関してよく言われるのは、「鬼ごっこをしてコミュニケーション能力を高めよう」と考える人はいないということです。鬼ごっこ自体が目的になるのが遊びの特徴です。これはアートやスポーツにも当てはまり、絵を描くことやスポーツをすること自体が目的となります。このような活動の中で夢中になり、自己成長を実感できることが重要です。今回フリースクールの子どもたちと探求活動を行った際、自分が乗れる電車を作りたいと話す子どもがいました。井戸を掘りたい子もいました。話を聞くと多様なアイデアが出てきて、それらが生物部や美術部などの活動につながっていく可能性もあり、このような子どもたちの興味を引き出すことが大切だと感じました。

次回2月の会議では、今回の議論を基に具体的なアイデアを言葉として形にしていければと思います。短い時間の中で少しずつ進めていきますが、一定の案が出た段階で事務局と相談しながらまとめ、皆様と議論を深めていければ良いと考えています。それを置いて、いくつかの案にまとめて、「どうしますか」といった形で皆様にお示しし、議論を進めていければ良いと考えています。この案をそのまま採用するという形にはならないかもしれませんが、言葉を少しず

つ具体化していくことが重要です。

実は、以前「好きに挑む」というビジョンを決めた際、別の会社と一緒に作業を進めた際、その時には、100個の案を考えることを目標にしました。最終的に、会議全体で100案近く出した中から「好きに挑む」という言葉が選ばれました。たくさんの案を出すことは全く悪いことではありません。むしろ、多様なアイデアが出ることを期待しています。すみません、時間をかなり過ぎてしまいました。

それでは、議題4「今後の予定について」に移ります。事務局から説明をお願いいたします。

三浦課長 それでは、資料6をご覧ください。今後の日程についてご説明いたします。

委員の皆様は日程調整をお願いした結果、次回は令和7年2月13日（木）に開催を予定しております。

内容につきましては、改めて委員長と協議の上、皆様にご連絡いたしますので、ご予約の確保をよろしくお願いいたします。以上でございます。

金子委員長 今の予定に関してご質問等ありますでしょうか。

それでは、議題5「その他」に移ります。皆様、何か他にございますか。

川原委員 1つよろしいですか。

金子委員長 はい、どうぞ。

川原委員 今ちょっと話題にも出ましたが、現在、小金井市内では12名や9名程度の外部指導員の方が部活動の指導をしてくださる方に、現場で起こっていることやアンケート、あるいは実際に辞めてしまった方がどのような理由で辞めたのか、そうした実情を伺う機会を設けていただけないでしょうか。

金子委員長 リーラスさんがそれを実施するのが難しい場合には、我々がヒアリングする形でこの場にお招きするなど、別の形も考えられると

思います。ご検討いただけますか。

三浦課長 ご提案ありがとうございます。初めていただいた内容ですので、内部で持ち帰り、検討させていただきます。

金子委員長 可能であれば、保護者の方々の意見も調査できると良いと思います。例えば市民の9割が、学校が部活動を運営すべきだと考えているといった結果が出ることもあるかもしれません。先生方にとってはショックかもしれませんが、全国的なデータも参考になると思いますので、そのような情報を収集して共有いただければと思います。他にご意見ございますか。

中村委員 事務局にお尋ねします。現在、緑中でバスケットボール部の実証実験を予定されていますが、こうした会議で議論をするのも良いのですが、可能であれば実際の現場を見学させていただきたいと思っています。実際にどのような形で行われているのかを拝見する機会があればと思いますが、いかがでしょうか。

三浦課長 結論から申し上げますと、今回の部活動形式で行われますので、委員の皆様が現場にいらっしゃると子どもたちが緊張してしまい、難しいかもしれません。ただ、ご提案として承り、検討させていただきます。

中村委員 承知しました。土日でも構いませんので、現場を見学することで議論に活かせる点があると思いますので、ご検討をお願いいたします。

三浦課長 慎重に検討させていただきます。

金子委員長 人数制限をしてなど、検討をいただけたらと思います。それでは事務局よりその他の連絡事項はありますでしょうか。

三浦課長 特にございませぬ。

依田委員 今の話に関連しますが、平日の練習と土曜日の練習の様子を1日

で良いので見せていただけると参考になると思います。自分自身も野球を指導している環境があって、特に先生方の指導方法や活動の進行状況などを見学できると大変有益だと思います。ご検討いただければと思います。

三浦課長 ご発言を承りました。

鈴木委員 最後に一言よろしいでしょうか。手短に済ませます。以前から申し上げている通り、完全移行は小金井市の場合は予算や受け手の問題などから難しい状況だと思っています。そのため、地域連携をファーストステージとするのが良いのではないかと考えています。

今回、3月に熊本で発表された中間答申の後、素案を11月に出されました。その中で、1600人の人数や時給の話がありましたが、人材バンクを作り、人を集めるという形が示されています。

小金井市では、生涯学習課に「市民講師登録制度」があり、教育委員会の指導室には「教育ボランティア制度」があるので、新たに制度を作るには労力がかかりすぎると思いますので、これらを活用して小金井版の人材バンクを作るのも1つの方法かと考えています。次回、この件についても提案させていただきたいと思います。

また、3月26日に発表されたリンクのQRコードと、先月発表された素案への直リンクのQRコードを置いておきますので、ご興味のある方は目を通していただくと嬉しいです。次回の会議までにご確認いただけますようお願いいたします。以上です。

金子委員長 ありがとうございました。それでは、他に特にご発言がないようでしたら、本日の議題は全て終了いたしました。

本日の会議を終了とさせていただきます。お時間が長引いてしまい、申し訳ありませんでした。ありがとうございました。

— 了 —